

熊本県立八代中学校 令和2年度(2020年度)学校評価表

1 学校教育目標

「令和2年度(2020年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を基盤とした本校の綱領である

- ・「誠実にして真理を愛する」 To love truth, being sincere.
- ・「自律を旨として協和を重んずる」 To respect harmony, being self-determined.
- ・「闊達にして進取の氣象を尚ぶ」 To develop a spirit of enterprise, being broad-minded.

を教育理念の根底におき、生徒の知性と品性、豊かな感性と闊達な行動力を育むとともにグローバルな視野を切り拓く教育を実践する。

2 本年度の重点目標

- ① グローバル人材育成プログラムの更なる充実 (知の触発プログラム・アクションプログラムの推進と精選等)
- ② 新学習指導要領を踏まえた指導方法の実践と更なる改善 (主体的・対話的で深い学び・ICT機器の活用等)
- ③ 学校の魅力向上と発信の充実
- ④ 中高一貫6ヶ年グランドデザインの完遂
- ⑤ 学校における働き方改革の推進

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	グローバルな人材の育成	◇グローバルマインド並びにグローバルスキルを身に付けるための基礎力養成	○総合的なコミュニケーション能力育成のために、学校設定科目「対話力」を効果的に実施する。 ○各種ボランティア活動への自主的参加者年間延べ150名以上を目指す。	・NIE、ディベート、MISE、ビブリオバトル、知の触発等の活動を充実させ、言語活用能力やコミュニケーション能力の伸長を図る。 ・活動の最新の様子について、HPで常に公開する。	B	・「対話力」の時間の中で即興型英語ディベート、外国語資格取得のための学習の時間を十分に確保することができた。イングリッシュキャンプは新型コロナウイルスの影響により中止となった。 ・学期に1回、講演会を行うことができた。 ・活動の詳細についての発信がタイムリーにできなかった。今後の課題である。
	中高一貫教育の推進	◇中高一貫6ヶ年グランドデザインの完遂	○中高6ヶ年のグランドデザインを柱として、より質の高い中高一貫校としてのカリキュラム・マネジメントを実施する。	・学校設定科目「対話力」をはじめ、各教科・科目において、より効果的な実施という観点から内容を精選する。	B	・各教科ごとには中高一貫教育を意識した教育課程はあるが、教科担当の裁量になっている。可視化できる形での取り纏めが必要である。 ・総合的な学習の時間は新型コロナウイルスの影響で活動が縮小傾向になった。
	業務改善及び働き方改革の推進	◇勤務時間の適正管理 ◇業務の削減・効率化	○月の時間外勤務の上限の目安時間45時間以内、年の時間外勤務の上限目安時間360時間以内、という勤務時間の適正管理の意識を醸成する。 ○職員朝礼を週2回(月、木)実施とし計画的な業務遂行体制を整備することに加え、専門家への相談体制を充実させる。	・タイムカード等による勤務時間の適正管理等に加え、産業医による保健指導を充実させる。 ・Classiを活用した情報共有により、会議時間を短縮する。 ・SC、SSW、部活動指導員等の専門的人材の活用拡充を推進する。	B	・月80時間以上100時間未満の職員はのべ2人であった。月平均で45時間を超えている職員は5人であった。前年と比較すると減少しているが、出来る限り業務の精選や平準化を図っていく。 ・SCや部活動指導員等の活用で職員の負担軽減を図る。
学力向上	教師の指導力向上	◇アクティブラーニングの視点、ICT活用 学力の3要素を踏まえた授業改善	○生徒による授業評価において各教科のアクティブラーニング、ICT活用、学力の3要素を踏まえた授業実践についての肯定的評価が70%を超える。	・授業力向上のため、各種研修会への参加やスーパーティーチャーの指導を仰ぐ機会を提供する。 ・生徒による授業評価を年2回実施する。 ・ICT活用やアクティブラーニングに取り組んだ研究授業を各教科年2回実施する。	B	・学校評価で「授業でアクティブラーニングが行われている」の項目に肯定的回答した生徒の割合は1.6ポイント上昇し93.4%であった。しかし、「よく当てはまる」と答えた割合が8.4ポイント下降した。 ・「学力を伸ばす工夫を行っている」の項目は昨年より2ポイント上昇し98.5%だったが、まだ授業改善の余地は職員のアンケート結果からもあると考えられる。
	生徒の自発的な学習の促進	◇予習→授業→復習のサイクルの確立及び教科等の学習の統合、転用、活用の促進	○学年ごとの目標学習時間を設定し、60%以上の生徒が目標を達成している。	・各学年における適切な目標学習時間を再検討する。 ・年3回、期末考査前に自宅学習調査を実施して家庭学習、読書等の指導に活用する。	B	・予習→授業→復習の学習サイクルは大半の生徒が確立している。家庭学習目標時間の確保ができていないのは、1・2学年であった。与えられた課題だけではなく、自発的な学習に取り組ませる手立てを検討していきたい。
キャリア教育(進路指導)	進路目標の明確化と大学入試に対応できる学力を身に付けさせる指導	◇6年間を見通す進路指導グランドデザイン推進	○大学入試共通テストを受ける生徒に求められる学力を育成するための、6年間の指導方針を完成する。	・様々な自己研鑽や社会貢献活動を通して自己の進路を考えさせるための情報を提供する。	B	・高校進路部と連携し、随時進路情報交換を行った。 ・学力検討会を1回実施し、生徒の実態や教科の分析、成果と課題、今後の手立てを議論し、指導方針の共通化を図った。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
キャリア教育(進路指導)	生徒の進路観、職業観の育成	◇個人の活動体験の活動体験データをポートフォリオ形式で蓄積	○社会と関わり、社会の内包する様々な課題に気づかせ、将来の学びに触れる機会を提供する。	・ポートフォリオ形式によるデータ管理の指導と、各種の体験活動や講演会など、他の部署と協力して実施する。	B	・高校進路部と連携し、大学合格者講話、京都大現役大学生、八高ガイダンス等を実施し、志を高く持ち努力する生徒の育成を図った。 ・グローバル改革推進部と連携し、電子データによるポートフォリオ作成のためにClassiを積極的に活用する必要がある。
生徒指導	自由と規律に基づく自律的な行動	◇きまり・心得遵守 ◇観察と情報共有 ◇率先垂範	○5分前行動、挨拶の励行、服装・頭髪の整美を自ら行うことができる生徒を育成する。 ○生徒情報の共有及び学校からの情報発信を行う。	・年間5回整容指導を実施する。 ・朝の登校指導を利用し、服装の整美、時間厳守、挨拶を指導する。 ・教員同士及び教員と保護者との情報交換を密に行う。	B	・全職員共通した基準で整容指導を実施できた。 ・登校指導を継続実施し、基本的な生活習慣の確立に貢献できた。時間厳守に今後は力を入れて取り組みたい。
	自治的活動の推進	◇自治活動の場面設定 ◇系統的・組織的指導	○各部会の部長を中心に年間計画に沿った月ごとの目標と具体的な活動内容を設定し、全校生徒が自治会活動に参加できる体制をつくる。	・時節や行事等に応じた達成可能な目標を設定する。 ・あいさつ運動やボランティア活動を積極的に推進する。 ・生徒自治会執行部及び部長によるミーティングを月1回実施する。	B	・鳳雛祭の代替行事を行うなど、自治会役員が積極的に動くことができた。 ・自治会の各部長が自ら考え、主体的にリーダーシップを発揮できるように指導していきたい。
人権教育の推進	人権問題の正しい認識と差別をなくす実践力の育成	◇地域の実状を踏まえた人権意識の向上 ◇実践力を高めるための中高一貫6年間を見通した各学年の目標設定と取組	○部落差別をはじめ、あらゆる差別の解消に取り組む生徒を育成する。 ○職員一人一人が人権問題に関する基本的認識を確立し、人権教育を推進する。	・人権部落問題学習を各学年ごとに学期1回実施する。 ・校内人権集会を年2回実施する。 ・地域主催の人権同和教育研究会(原則全員)や現地研修会(新転任者及び希望者)に参加する。	B	・1学期は1・2年生の講師招聘の学習ができず教材による学習を行ったが学年間の共通理解や把握が不足した。拉致問題めぐみの視聴や多様な性に関する授業も行った。 ・放送による人権集会では、差別の構造等いじめ問題に対する認識を深め、人権作文の発表を通して生徒の人権意識の高揚を図った。
	生徒が適切な支援を受けられる体制の整備	◇障がいの有無や個々の違いを認識しお互いを支え合い、すべての生徒が生き生きとした学校生活を送るための取組	○支援を要する生徒の実態把握と共通理解に努める。 ○個別の教育支援計画と指導計画を立てるとともに、予防的な指導及び支援の充実を図る。	・授業時や学校生活の中でのきめ細やかな観察を通じた情報収集をもとに、生徒理解研修を年3回実施する。 ・必要に応じて人権教育部会や特別支援教育委員会を開く。 ・個別の教育支援計画と指導計画を立て、それに基づき支援する。	B	・生徒理解研修では支援対象の生徒について全職員に報告が出来、学年会や毎週火曜日には子どもの日として情報交換を行い課題に応じた支援の共通理解が図れた。 ・個別の教育支援計画を立て個に応じた支援体制の充実を図った。教育相談室Ⅱの運用も始まり生徒一人一人の把握に努めた。
	命を大切にすることを育む指導	◇自他の生命を尊び、大切にしていこうとする態度の養成 ◇自らの在り方生き方を学び、夢や目標の実現に向けて努力する態度の育成	○すべての教員が学習活動において生徒の人権感覚を育む指導を行う。 ○社会貢献活動や自己研鑽活動をとおり、生命や自然に対する畏敬の念を高める。	・自らの教科において人権教育と関連する学習内容を確認するとともに、人権感覚を意識した学習指導を行う。 ・ボランティア活動や自己研鑽活動への積極的な参加を促す。	B	・職員研修を通して差別事案を自分自身の事として捉え教職員一人ひとりの言動が生徒の人格形成に大きな影響を与えることを自覚し、言語環境の整備に努めることの重要性を理解できた。 ・授業や講話、人権メッセージを通して自分や仲間への命、人権を大切にすることを育む指導を行った。
いじめの防止	いじめの予防と発生した際の早期発見と対応	◇いじめを未然に防ぐための予防的取組 ◇いじめの早期発見と早期対応	○日常の授業や面談を通して生徒の状況を的確に把握する。 ○定期的なアンケート調査によりいじめの早期発見を行う。	・学期に1回アンケート調査を実施し、いじめの防止・早期発見に努める。 ・学期に1回いじめ防止対策委員会を開き、実態把握や早期対応を行い、SCや関係機関との連携を図る。	B	・教育相談週間や心のアンケートをもとにいじめの早期発見に努めた。生徒との信頼関係や学級経営が早期発見や相談に繋がる等、学級風土づくりの重要性を共通理解できた。 ・各学年や担任と連携を図り、人権教育部として対応ができた。
地域連携(コミュニティ・スクール活性化など)		◇地域とともにある学校づくり	○生徒の安全、安心を第一に考え防災避難訓練を年3回以上実施する。 ○防災型から総合型へ移行を目指す。	・感染症予防対策として3密を徹底した防災避難訓練を実施したい。 ・災害時における本校の役割を検討し地域との連携を図る。	B	・新型コロナウイルス感染症予防の点から避難訓練は実施できなかったが、2回のシェイクアウト訓練や避難経路の確認を行った。

4 学校関係者評価

- 学校評価アンケートにおける学習に関する項目では、生徒と保護者の間でズレがある。家庭学習に関しては保護者の協力が必要なので、学校に任せっぱなしにするのではなく、保護者も生徒の学習意欲を喚起する取組を行う必要がある。
- 今年度はコロナ禍の中で様々な行事も中止・延期せざるをえない状況であったが、来年度以降は新たな発想で、コロナ禍における教育の質の向上を図って欲しい。
- 学校評価アンケートでは、「学校では、人権の大切さについて学ぶ機会がある」が100%好意的な意見であるのに、学校評価では、人権教育の推進に関する項目の評価が昨年から下がっているのが気になったが、学校からの説明を聞いて納得できた。
- 生徒に学習をさせるには動機付けが必要。学校評価アンケートから現状把握ができるので、どうやって生徒に学習に取り組ませるかを具体的に示し、共有しながら学校全体で取り組んで欲しい。
- 学校評価アンケートの生徒・保護者からの回収率を上げる取組が必要である。
- 八代高校・八代中学、あるいは八代という地域を好きになる教育が、生徒の学習に対するモチベーションを上げることにつながるのではないかと。総合的な学習の時間や同窓会の協力で、地域のことや学校の歴史を学ぶ機会をつくっていくことが今後必要になってくるのではないかと。

5 総合評価

- 各種講演会やZOOMを用いて講演をするなど充実した取り組みができた。本校の独自開設科目である「対話力」の授業が昨年度より週1時間減少となっているが、生徒の実態に即した計画を立案することができた。
- 例年、中学2年生の学習時間が1日1時間未満の生徒が増えている。部活動の中心学年であることから部活動と学習の両立に支援が必要である。
- 感染拡大の中、校外から講師招聘ができない状況ではあったが、放送を利用して高校自治会の生徒を中心に人権教育LHRや人権集会を工夫して実施することができた。人権学習の系統性や教材研究の在り方、言語環境の整備や仲間を大切に作る集団作りなど、職員研修を通して職員への啓発を図り、人権意識の重要性を再認識することができた。特別支援体制については、生徒の情報交換をこまめに行い、きめ細やかな対応ができるよう、担任のサポートや支援体制の整備ができた。
- 4月の時点で学校生活のルールやマナー、教室の掲示物、生徒の道具を置く場所などを職員間で共通理解することができた。
- 生徒指導便りを発行して、生徒に学校生活を送る上でのポイントの啓発を行うことができた。
- 不登校支援会議で情報の共有化を図ることはできたが、具体的な役割分担に課題が残った。

6 次年度への課題・改善方策

- 各種講演会や「対話力」の様子等を、HPを使って発信することが足りなかった。タイムリーに発信していくことが今後の課題である。
- 各学年の学習時間目標の設定は、学年が上がるにつれて増やしているが、生徒の現状は、学年が上がるにつれて減少している。特に、中学2年生において、学習時間が1日1時間未満の生徒が増えている。中学3年生においては、学年、教科と連携して高校に繋がる更なる学習習慣の確立及び学習意欲の向上に向けた対策を検討する。
- 人権学習を実施するにあたり、生徒の実態把握を丁寧に言い、どのような力を生徒に育むのか人権教育部を中心に精査し、きめ細やかな教材研究や学年間の共通理解を図り行っていくことが次年度の課題である。さらに、日頃の言語環境等、生徒の様子に目を配り、教科指導や学級経営など全ての場面で人権尊重の姿勢に立った指導を行っていくことが大切である。
- 感染拡大の中、人権教育関係の校外研修がほとんど中止され、新たな人権問題に関する情報収集が困難であったが、生徒の実態を把握したり関係する資料を取り寄せる中で、日頃の生活の中での言語環境の整備や人権意識の高揚を図っていく必要がある。
- 特別支援に関しては、支援を必要とする生徒が年々増加しており、支援環境を含む支援体制の整備が急務である。生徒理解研修はもちろん、中学校職員内での生徒理解に関する情報交換の場を積極的に設定し、職員全体で共通理解を図り対応していきたい。
- 本校の生徒指導課題として、スマートフォン、SNSの利用がある。実際に問題事案が発生したときに保護者同士が連絡を取り合うことなどで解決につなげることも必要であると考え。
- 自治会の各部会を活性化し、生徒一人一人が役割を持ち、充実して学校生活を送ることができるようにする必要がある。そのために自治会の各部長を育て、学校を活性化させる自治的な活動が行えるように今後は取り組んでいきたい。
- 各学年の生徒指導上の事で何が起きているのか。情報交換を密にする方策を今後考えていく必要がある。
- 生徒指導上の記録を確実に取っておくように職員間で共通理解しておく必要がある。